別紙様式2

令和6年度　　学 校 評 価 表　　（ 中間評価 ・ 最終評価 ）　　東広島市立三津小学校

学校教育目標	【校訓】よく考え　よく気づき　やりぬく子供の育成 自他を尊重し、主体的に学び続ける児童の育成	経営理念	ふるさとを誇りに思い、夢や志をもって、これからの社会をたくましく生きるために主体的に学び続ける児童の育成

評価計画							自己評価					学校運営協議会による評価		改善方策
項目	重点	中期経営目標	短期経営目標	目標達成のための方策	評価項目	目標値	達成値 10月	達成値 1月	達成度	評価	結果と課題の分析	評価	コメント	改善方策
確かな学力	2	主体的・協働的に学ぶ児童の育成	1 協働的な学びの土台となる安心して語り合える学級づくり	○学級経営や児童理解に係る研修や交流会を実施し、学びの土台となる学級づくりを充実（教職大学院派遣中の教員の研究との連携）	・学級経営や児童理解に係る研修の実施回数10回以上 ・児童の学級適応感の向上	10回以上 学校適応感の向上	10回実施 1-2年 90%、3年以上 80%（平均85%）	16回実施 1-2年 95%、3年以上 76%（平均85.5%）	100% 100%	4	後期は、より実践的な学級経営や児童理解に係る校内研修を実施することができた。学級適応感は、「居心地の良さ」の肯定的回答が、前期1・2年90%、3年以上80%（平均85%）、後期1・2年95%、3年以上76%（平均85.5%）であった。1年間を通して、どの学年も生徒指導上の問題が発生する中で、児童の学級適応感の平均が微増したのは、担任や学級に関わる教職員が児童と向き合い、真摯に取り組んできた成果であると考えられる。	A	・抜群の成果が上がったと実感できる。児童の気持ちを考えくみ取り、対応できたと思う。 ・研修を受け意識改革を行うことは、大切だと思うが、子供の発言から、先生方一人一人の意識の改革がさらに必要であると感じる。 ・相互評価の活動を仕組むと、もっと深化できると思う。	引き続き、協働的な学びの土台となる安心して語り合える学級づくりのために、児童理解を基盤としながら、ペア学年や教職員全体で交流・相談したり評価し合ったりして、教職員自身が成長でき、学校全体で推進できるように取組を進める。
			2 自ら学び、他者と協働して考えを深める授業づくり	○研究授業の実施（外部講師招聘） ・自ら学び、他者と協働して考えを深める児童の姿について具体的に共通理解 ・児童が自分の学び方を振り返ることができる授業づくりを実施	・「授業では、友だちと話し合ったり、一緒に活動したりして、自分の考えを深めることができている」児童の割合80%以上	80%以上	86%	94%	118%	4	もともと児童は、授業中に友だちと話し合ったり、一緒に活動したりすることに対して非常に肯定的であった。そのような実態を踏まえ、各担任が多面的に学級をアセスメントしたことを生かすとともに、発達段階や児童の実態に応じて、話合い活動の目的を共有するなど意図的な取組を行ったことが効果的であったと考える。	A	・学年の人数が少ないので、学級以外の子の意見に触れる機会もあると良いと思う。 ・引き続いて、他者への思いやり等をお願いしたい。 ・学びの準備、素材の活用をどんどん拡げてほしい。	引き続き、日々の授業の中で協働的な学びを仕組みながら、児童が自分の学び方を振り返ることができる授業づくりに力を入れる。
			3 基礎学力の定着	○テスト結果の分析と指導 ○学力補充時間を意図的・計画的に実施 ○学習のつまずきに応じた学習支援の実施 ○ICTを効果的に活用した学習支援	・児童の学力の定着状況：単元テスト80点以上（低80%以上、高75%以上）	低 80%以上 高 75%以上	低 80% 高 79%	低 85% 高 76%	106% 101%	4	低学年・高学年ともに目標値を超えている。低学年では単元テストの平均が後期に伸びた児童が多いたが、学年が上がるにしたがって、個人差が出始める傾向にある。単元学習の中での振り返りによる学習の定着状況の把握、スキルタイムを効果的に活用した繰り返し学習など、学習のつまずきに応じた学習支援を計画的に実施していかなければならない。	A	・学年が上がるにしたがって、個人差の広がりを保護者も感じている。保護者へのアプローチが必要だと思う。（保護者は、具体的なアドバイスだと取り入れやすい） ・子供たち個々の能力は高いと実感している。引き続き、勉強しやすい雰囲気づくりに配慮してほしい。 ・こつこつと繰り返して、確実に伸びていると思う。	スキルタイムの活用など、引き続き繰り返し学習を効果的なものにする。また、個に応じた支援についても学校全体で意識統一して取り組み、学習内容の定着を図る。
			4 読書活動の充実	○全学級で語彙を増やす取組の実施 ○学校図書館、安芸津図書館を積極的に活用し、読書記録を蓄積	・児童の読書数を教師が把握100%	100%	100%	100%	100%	4	読書カードに記入することで，年間の児童の読書数を把握することができた。しかし，目標冊数やページ数を達成している児童は，学校全体で半数程度であった。今後は，児童が進んで読書に取り組めるような手立てを考えていく必要がある。	A	・児童がお互いにお薦めし合ったり、感想を言い合ったりするのもおもしろいと思う。 ・子供たちを市の図書館で見かけることが多い。本に興味を示している証拠だと思う。 ・高学年になるにしたがって、知の世界への喜びを共有できると良い。 ・児童に、ページ数を競わせることのないようにお願いしたい。 ・「本を読むことがなぜ良いのか」という動機づけの部分が弱いような気がする。 ・ページ数を目標にして、読書好きな子供にするのは難しいと思う。	図書委員会やクローバーの会の方と連携して、児童が読書に興味・関心をもてるようなイベントや取組を引き続き行い、児童の読書への意欲を高める。
豊かな心の育成	1	自他を尊重し、児童の思いやりや協働意識を育成	5 自己肯定感の向上	○生活目標の肯定的評価を効果的に実施 ○児童による相互評価カードの取組の充実	・「自分にはいいところがある」と答える児童の割合85%以上	85%以上	81%	80%	94%	3	放送委員会による生活目標の呼びかけや紹介は、全校児童に目標を意識付け、取組を広めることができた。前月の生活目標について、担当者が肯定的評価を振り返りとして伝えることができた月もあった。 また、12月の生活目標を「キラキラをさがそう」とし、友達の頑張る姿やよい行動をカードに書いて伝える取組をした。書く児童も書いてもらう児童も偏らないように工夫をしながら、様々な場面の学年を超えた肯定的な相互評価ができた。今後は、家庭や地域とも協力した取組を工夫していく。	A	・すてきな取組だと思う。 ・おとなになっても難しいことだと思う。 ・目標値85%以上とあるが、子供たちと接していて、もっと高いと思う。 ・挨拶の課題を生活リズムから見ていくなど、教職員には子供の現象だけにとらわれない力量を付けてほしい。	学級や学校生活全般で、自己肯定感を高めるような声掛けや指導、授業づくりが基盤になる。職員研修で意識統一をし、家庭や地域とも連携した取組も考えていく。
			6 共感的人間関係の育成	○縦割り班活動（掃除、遊び）の充実 ○相手意識をもって取り組む生徒指導重点目標「三津っチスタンダード（掃除・挨拶・言葉遣い）」の定着	・「縦割り班で協力して活動している」と答える児童の割合85%以上	85%以上	93%	96%	113%	4	縦割り班掃除では、教職員も一緒に掃除や指導に関わり、異学年が関わりながら落ち着いて掃除を行うことができている。1年生の掃除も上手になり、児童がそれぞれの役割を頑張ることができている。 挨拶は、年3回生活目標として設定し、「あいさつレベル」で具体を示してきた。教職員だけでなく、児童や放送委員会による呼びかけも行ってきた。学校生活の充実とも大きく関わっていると考える。	A	・挨拶にしても掃除にしても、一生懸命取り組もうとする姿勢が見られると、本人の変化に繋がると思う。 ・人間関係の基本は、他者に対しての挨拶であることをしっかり教えてほしい。 ・「やさしさ」を大切に育んでもらいたい。 ・縦割り班の活動は、今後も活発にしてほしい。	縦割り班が協力をしたり相手を思いやったりする集団となるように、縦割り班遊び等の楽しい活動を取り入れるなど工夫する。 生活目標については、相手意識を持った行動ができるよう、生活目標の提示の仕方等取組を工夫していく。
			7 自己有用感の向上	○当番や係、児童会、委員会活動の充実 ○感謝の気持ちを大切にする取組の実施	・「人のために役立つ行動や活動ができた」と答える児童の割合80%以上	80%以上	81%	92%	115%	4	当番や係活動が充実し、活動している学級が多い。委員会活動やクラブにおいても、児童のアイデアを取り上げたり、主体的に参加できるように多くの児童に役割を分担したりする等の工夫も行い、充実した活動となっている。また、学級の催しに招待したり、学年がお礼を伝えたりするなど、「キラキラカード」に書いて伝えることができた。感謝の気持ちを大切にする取組を、さらに工夫していく。	A	・子供なりに考え、真摯に向き合っているように感じる。また、全体的に好意的に取り組んでいる印象だ。毎年、仕事内容等を本人たちが決め、流動的に行ってもよいかなと思う。 ・子供たちは、登下校時、非常事態が発生した時「異変を人に知らせる」手段を学んでいて、成長していると感じた。 ・もっと社会の人等との直接の交流を通して、学ばせてほしい。	学級、クラブ、委員会、児童会活動において、児童が主体的に参加ができるような工夫をしていく。また、異学年や地域との交流では、引き続き感謝の気持ちを伝えることを大切にしていく。
たくましい心と体	3	気力・体力の向上	8 体を動かすことが好きな児童の育成	○適切な目標の設定やスモールステップによる成功体験の積み上げ ○ロング昼休憩の充実 ○縦割り班活動（遊び）の充実【再掲】	・「運動が好き」と答える児童の割合80%以上	80%以上	88%	90%	113%	4	ロング昼休憩での全校遊びや、休憩時間での全員遊びなどを通して、「運動が好き」と答えた児童が増えたと考える。また、体育の時間の運動においても、成功体験の積み上げを重視したことで、成果が上がったと考えられる。今後も、個に応じた適切な目標設定やスモールステップによる学習を大切にしていく。	B	・体力等の差が広がり、チーム分けについても均等にすることが難しいようだが、児童が勝敗だけにとらわれないように教師の声掛けを意識してもらいたい。 ・休憩時間に校庭から子供の声が聞こえることが、すごいことだと思う。 ・引き続き、外遊びの活用や時間の保障等をお願いしたい。	引き続き、ロング昼休憩での全校遊びや、休憩時間での学級遊びなどを続けることで、外遊びや友達と遊ぶことの楽しさを感じることができる取組を増やしていく。また、体育科の授業では、個に応じた適切な目標設定やスモールステップによる学習も大切にしていくとともに、児童が主体的に運動に取り組めるよう工夫する。
			9 「粘り強さ」の向上	○適切な目標の設定やスモールステップによる成功体験【再掲】 ○目標達成のプロセスを見える化し、教師による積極的な足場がけ	・体力テスト強化種目の記録を更新できた児童の割合80%以上	80%以上		84%	105%	4	強化項目に向け、効果的な運動を提案し、継続して取り組むことで、体の使い方が分かり効果が上がった。しかし長座体前屈は、気温の低い時期、記録の伸びが難しい点があった。寒くなる前に取り組むなど、計画的に進めていく。	A	・本人の記録の伸びが分かれば、モチベーションに繋がると思う。 ・持久走記録会で、子供たちが頑張る姿を見て、感銘を受けた。 ・児童の自己目標に向けての到達度を、教職員が的確に評価してあげてほしい。 ・成長段階にある児童にとって、目標値が低いのではないか。	教職員が児童に的確に目標をもたせて、意欲を高めるようにする。また、体力テストの課題のある種目については、教職員が記録が向上するような研修をしていくことで、体の使い方を児童に教えていく。
信頼される学校	4	地域とともにある学校	10 コミュニティスクールと地域学校協働活動の推進	○地域学校協働活動の充実 ○地域の方からのフィードバックによる改善	・「地域が好き」「自分も地域の役に立ちたい」と答えた児童の割合80%以上	80%以上	92%	94%	118%	4	「好き」が96%、「役に立ちたい」が91%であった。CS推進員と地域学校協働活動推進員との密な連携のもと、学習活動等で多くの地域の方に関わっていただいた。学習の振り返りでは、「自分たちにできることは何か」を児童に考えさせるよう意識した。150周年記念行事の取組も、児童が自分たちの母校や故郷について考えるきっかけとなった。	A	・総合的な学習の時間を通して、地域との繋がりをたくさん作っていると感じる。 ・見守り隊の活動は、子供たちや地域の人たちの鏡だと思って、活動に従事している。 ・子供たちの方からの声を大切にしてほしい。 ・学校運営協議会が年3回で妥当なのかどうか。	引き続き、CS推進員と地域学校協働活動推進員の密な連携のもと、地域の方に関わっていただく学習活動を展開していく。また、学校運営協議会委員との熟議の機会を持てるよう、協議会の持ち方を工夫する。
		働きがいのある学校	11 働き方改革の推進	○学校が担うべき業務に専念できる環境整備 ○業務改善の取組の交流 ○相談し合える風通しのよい職場づくり	・働きがいがあると答えた教職員の割合85%以上	85%以上	100%	100%	118%	4	学校が担うべき業務に専念するために、教頭やCS推進員が保護者や地域との調整を行った。また、今年度後半からは、教職員間の情報共有方法の効率化など、ICTによる業務改善を進めた。相談しやすい職場環境づくりにも管理職を中心に、引き続き取り組んだ。一方、業務量の偏り等、業務推進に多忙感・負担感を感じる教職員もおり、今後も業務の選択と集中や、教職員の強みを生かし可能な限り業務の平均化を図っていく必要がある。	A	・児童の登校時間を遅くしてはどうか。先生方の出勤時間が早まっているように感じる。 ・学校が地域に相談等をすれば、もっと改善できると思う。地域に相談してほしい。 ・地域にお願いすることと、学校でやることを区別して見える化したらどうか。 ・働きがいについて正直に答えにくい雰囲気がないか、常に点検してほしい。 ・先生方の業務負担を軽くするために、保護者や地域がもっと協力できることがあると思う。	今年度の学校運営協議会の熟議により出た意見をもとに、学校が担う業務と、地域が担う業務を整理し、地域と共通理解を図っていくことで、働きがいの向上を目指していく。

※目標の精選と重点化を行い、重点の項に「1」「2」「3」で表示する。

達成値/目標値を百分率で表示する

■自己評価
4…目標を上回って達成　　3…目標どおりに達成
2…目標をやや下回って達成　　1…目標をかなり下回って達成

■学校関係者評価 （学校運営協議会による評価）
A…とても適切である　　B…概ね適切である
C…あまり適切でない　　D…全く適切でない